

# 家庭で幼児に聽かせるおはなしについて

一 保 姆

近來は練成とか躰とか云ふことが重んじられて居りますので、御子様のご教育といふことに意を用ひられる御家庭では、殆んど凡て云つてもいゝ程にこゝろいふ方面への心掛け、御注意が行き届いてゐるやうです。併し、幼稚園期のお子さんでは、その實行の徹底ともいふべきものは、完全には望めないのですが、御家庭でももう少し、獨りでどん／＼實行するといふ處まで導いて頂き度いものと思ひます。

扱てこの時局になりました、御子さんに聞かせる「おはなし」をといふことを聞かれますが、從來の所謂童話―觀察ばなし、社會の出來事のはなし、季節のはなし、日常生活の中に出て來る事柄をお話として扱ふおはなし、こゝろ言つたお話の他に、何と云つても事務局のはなし、團體に關するお話と云つたやうな、この二つのお話が濃厚に私共の周圍にあるのではないでせうか(この二つは今までたつて相當にあつた

のですが時局のお話、主として戦争のはなし―武勇譚・漂流記・生還譚・軍馬・軍犬・軍用鳩等々これ等のお話にも御子さんは異常の興味を感じてよく聽くものです。この種類のお話は、今一つの纏つたものとして發賣されてゐるものが極く少いのですが、新聞や、大人の讀む本として出版してありますもの、中から、幼児によき部分を把握して聞かせるやうにしなければなりませんので、一寸面倒ですが、主材はいくらでもそこ／＼にありますから入念に氣をつけて見出して、きかせてあげて下さい。

それから我が國體を明らかにする意味で、「カミサマノオハナシ」とか古事記や日本書紀などの抜萃したものがありま

とどうしてそんなところではありません。お名まへこそ一々正確には覺え込めないかも知れませんが、國の初め、國の成立ち、神神様の武勇談など、大變な興味の持ちやうです。

たゞ、この種のお話は或る部分々々のお話をするか、連續して神世からのお話をすることは事情によつて異りませうが、少しづつをゆつくりとよく分るやうに、そして奥深く諒解出來るやうに話して上げれば、連續してでもよく分るものです。お國の成立ち、お國柄を識らせる意味に於てこの種のおはなしも大いに加へて欲しいものです。

幼い時に聞いたお話は何となしに心に秘み込んでいつまでも残つてゐるものですが、その雰囲気は注意し度いものです。こゝろいふ神世のお話とか、皇室に關するお話などの時は、どこまでも敬虔な態度で、敬語もおろそかにしないやうに、こゝろ言つた雰囲気を作つて話し度いものです。